

## 調布市武者小路実篤記念館 開館にあたって

調布市武者小路実篤記念館は実篤が晩年の20年間を  
過した仙川（現調布市若葉町）に昨年10月29日開館い  
たしました。

武者小路実篤は文学・美術・演劇・思想と幅広い活  
動を続け、昭和50年90歳で生涯を閉じました。調布市  
は御遺族から邸宅、200点を越す実篤作品や愛蔵品、  
著作をはじめとした図書の寄贈を受けました。大小3  
つの池のある緑ゆたかな邸内は実篤公園としてすでに  
公開されており、記念館は寄贈された資料を展示・公  
開するとともに関係資料の収集・保存を進めてゆく目  
的として公園と地下道で結ばれた隣接地に建てられま  
した。

建物は日向の新しき村にあった草葺の施設をイメ  
ジに取り入れたもので、敷地内768㎡に鉄筋コンクリ  
ート2階建、総床面積約323㎡で庭内には白樺や画題  
とした草木を配した小規模ながら趣きのあるものとな  
りました。建物内部は1階が展示室（約136㎡）、ホ  
ール（約36㎡）、事務室その他（約61㎡）、2階は展  
示準備室（約22㎡）、収蔵庫（約57㎡）となっております。

展示は幅広い活動を続けてきた実篤をわかりやすく  
紹介するために6つのゾーンに分けて構成を行ない、  
限られた空間を効果的に活かす工夫をしております。  
各ゾーンは実篤の好んだ言葉のなかから「心」「道」  
「愛」「美」「真」「和」を選び各ゾーンを印象づけ  
ております。

おもなゾーンの展示内容は、「愛」のゾーンでは60  
00篇を上まわる著作を残した精力的な文学活動をし、  
生命讃美・人間愛を語ってきた実篤の作品を原稿・初  
版本・雑誌を通して紹介しております。

「美」ゾーンは、40歳を過ぎて絵筆をとった実篤の  
書画、古今東西の書画・陶磁を集めた数々の愛蔵品を  
通して実篤独特の美の世界を紹介し、「真」ゾーンで  
は白樺や新しき村の活動、仙川時代ともよばれる晩年  
の人生論的著作などから人々の道標となった実篤像を  
紹介しております。

また実篤作品を気軽にふれてもらえるように文庫本  
をそろえた「和」ゾーンを設けました。

開館して4ヵ月、小さな展示スペースのため、当初

## 調布市郷土博物館 館長 加藤 光太郎

は来館者が見学するのに時間をかけないのではないか  
と思っておりましたが、かえって広くないだけに、ゆ  
っくり見学していかれる方が多く、館としてうれしい  
思いです。

しかし一度来館したらそれきりということがないよ  
うに小さなスペースを逆に利用し、定期的にテーマを  
持った構成で、細めに展示資料を入替え、何度でも気  
軽に来館できるような魅力ある展示を目指したいと思  
います。

また年2回春・秋には都美術館・都近代文学博物館  
をはじめとした実篤関連施設の協力を得て企画展を開  
催してまいります。

最後となりましたが、今後一層のご指導・ご協力を  
よろしくお願い申し上げます。

### 〔ご案内〕

所在地	調布市若葉町1-8-30
TEL	03(326)0648
開館時間	午前9時～午後4時
休館日	月曜日（祝日のときはその翌日） 年末年始 展示替え期間中
入館料	大人100円 小人50円 ただし65歳以上は無料
交通機関	京王線つつじヶ丘駅または仙川駅下車 徒歩10分



調布市武者小路実篤記念館（昭和60年10月29日開館）

## 虎の居ない動物園のトラ展

東京都井の頭自然文化園  
事業係長 小杉雄三

新春には、干支に因む展示を行なうのが文化園の恒例になっている。

今年は寅歳。然るに文化園にはトラが居ない。かつて飼育したこともないので毛皮も残っていないのである。動物園的性格の強い文化園にとって、トラも居ず標本もなしで「トラ展」を行なうのは、パイを売ってもいず、見本もない菓子屋がパイのキャンペーンを行なうような面映ゆきがあるのである。

標本類の借用も、合憎くタイガース優勝フィーバーで入手難。つてを頼って借用できたのが、ヒゲと爪と足型だけ。

この小文は、トラの居ない動物園がトラ展をどう企画したかという内輪話しの断片的な紹介である。

12月の或る夜のことである。文化園資料館に数人の男共が机をかこんで陰気な顔をしていた。

「やはり実物の持つ迫力が欲しいよ」

「物があって、何んだらうと説明を読むのが普通だよな。説明だけあって実物がないのはどうもねえ」

トラの進化、分布、体の構造や特徴、生態を渡辺画伯の描くパネルで展示することと、日本郷土玩具の会の牧野会長の出品されるトラの郷土玩具を陳列するという骨組みはきまっていたのだが、如何せん、いまひとつ心の中にあるすき間が埋まらないのである。

「少ない実物標本。この材料をどう料理するかだな」

「実物のないところは智恵で埋めるより仕方ないね」発想の転換が必要なことは分かっているのだが、きっかけがつかめないのである。「今日はこれで止めよう」誰かがコップを並べた。「ヘロドトスがねえ、ベルシャ人を誉めてるんだ。彼等の会議の風習に学ぶべきだというんだ」つまり素面の集会での決定は酒席に移って再確認の洗礼を必要とし、酒盃の下での合意は白昼の席で追認されて始めて決定されたと認められるという。固定観念、旧規、情実を排除し、発想を飛躍させる智恵を持っているというのである。

その日から連日、資料館には古代ベルシャ人の後裔たちが集まることとなったのである。

そんな或る日のことである。爪とそれにつながる指骨の標本をながめて獣医が云った。「いつだったか、これを見てなるほどこんな仕組みで爪がガッとむき出されるのかと感動したもんだよ」

「これ動かせないか」

それが一つのきっかけだった。「模型を作って動かしてみたら」「大きい方が迫力だよ」

翌日から始った模型づくりが、未だ暗中模索で悪戦苦闘のさなかのある夜、コップを持ったある男がつぶやいた。「爪を動かすのも良いが、爪の威力を具体的

に示せる物が無いかねえ」

「あるよ。あいつは木を引っかくんだ。木がポロポロにささくれだっちゃう」「それいけそうじゃない」2日位たつとこんな話も出て来た。「爪だけじゃなくてキバの威力を感じさせる物ないかねえ」

「あいつは木もかじるんだ。直径6〜7センチ位の檜の棒なんか一噛みでバリッと噛み切っちゃうよ」

「すげえ。トラにうちの木をかじってもらえないかね、陸上に棲む肉食獣で最大最強のキバだからな」

「よしU動物園に頼んでみよう」

「それが上手くいってしてだ、展示した木とトラが実際にひっかいたり噛じったりした木が、同一だということが分ると迫力出るんだがね」「ビデオを使おう噛じってるところを撮るんだよ」「見てる前でやってくれるかね」

誰もが意識していなかったが、トラの体の一部の標本を利用して、その機能した結果の証拠物を展示することで、観覧者のイメージの中でトラの全体像を再構築できるのではないかという方向に、発想が向いていたのである。しかも少々突飛なアイデアも加えて…。

例えばトラのマーキングである。広いテリトリーの境界に、トラは放尿によって匂いづけをして、他のトラへの警告標識とする習性がある。本で読んだことがある人も、実際にその匂いを嗅いだことはないに違いない。「トラにマーキングさせて、その木を展示しよう。匂いを嗅いでみてもらうんだ」「あれは、すごい臭いだぜ」「すごい匂いと云えば糞はもっとすごいよ、吐き気がする位だ」「それは標本につけ加えよう」もらって来よう」毛皮のないのを嘆くと、ぬり絵を作って子供達に自由に色を塗らせてみようと言うアイデアになる。「子供を中心に考えることは、文化園の歴史的使命だからね」

するとたちまちトラの習性に因んだコンピューターゲームを考えつく。トラの足型で作った記念スタンプも採用された。これで皆んな頭の中に展示の全体像がしっかりとときざみこまれた。

寒風の吹きすさぶU動物園のトラの檻の中で材木の取り付け作業が行われ、トラはきわめて好意的にひっかき、噛じり、放尿してくれた。

1月4日、5日、トラの張りボラの口から入館した老若男女が、トラの咆え声にびっくりし、展示品の一つ一つにうなづいたり、クスクス笑うなかで子供達の嬉しそうに目がキラキラ輝やいているのを見て、体から力が抜けたのである。その晩、トラの居ない文化園に、何人かのトラが出現したことをご報告申し上げる。

## 狭山考

私の好きな歌

五月闇狭山が峯にともす火は

雲の絶え間の星かとぞみる 千載集修理大夫顯季  
 名著「狭山の朶」で杉本林志（多摩郡宅部、今の東大和市の人）は、この歌をつぎのようにみている。「按ずるに狭山の峯は此のあたりなるべし。往昔は猪や鹿多く出で、耕作物を食い荒し、土民難儀し、それらを威すため峯にて夜毎火を焚きけるよし云ひ伝ふ。五月闇の頃、恰も星なども出でしかと駭きみしころなるべし。」と。

恋すてふ狭山の池のみくりこそ

ひけば絶えすれ我やねたゆる 古今六帖読人不知  
 ※みくり、三稜草、水沢の地に多く、高さ三、四尺、夏高い茎から抜き出して細花を開く。

瑞穂町郷土資料館は狭山の山壁の奥に、そのあたりに自生している松や小楢と同じように根をおろしている小さな建物です。私はこの地に生れ、育ち、そして今またこの館に勤めている者です。歌の心得もない私が何故かこの歌が好きなのは、きっと狭山という言葉の醸し出す一種の情緒に惹かれたからでしょう。

粉飾と文筆家

粉飾決算で世間を賑わした会社がありました。古来、文筆家というものは大なり小なり粉飾癖があるようです。実は私の好きな前記の歌は、狭山の古歌として新編武蔵風土記稿や武蔵名勝図絵等權威ある地誌に載っているものですが、これは武蔵の狭山ではなく、河内の狭山を歌ったものだったということが、ある時わかったのです。昭和四十三年、瑞穂町史の編集が始まった時の事でした。狭山という地名のルーツをたずねて大阪府狭山町へ編集関係者一同で行った時、現地の狭山池と、奈良時代よりはるかに古い記紀の時代に遡る歴史をもつ狭山町一帯のただずまいにじかに触れて、本物はここだという実感にうたれたのは偽らざる事実でした。

化政期をピークとして多摩の文人や史家達は新編武蔵風土記稿、武蔵名勝図絵、江戸名勝図絵、武野遊草、武蔵野話、玉川源日記、狭山の朶、御嶽管笠等つぎつぎと発刊して、郷土の認識を高めるのに貢献しました。反面、我田引水、狭山という言葉はどれもこれも武蔵の狭山であるかのような面もうかがわれ、後世に混乱を残したことも事実でしょう。瑞穂町の溜り水、

## 瑞穂町郷土資料館

囑託 栗原 仁

菅の池が恰も平安期の大宮人の歌題となった狭山池であるかの錯覚を与えているのも江戸期の文筆家達の粉飾癖の結果といえましょう。郷土を愛し、郷土を美化しようとする気持はわかりますが、真実を曲げた牽強付会の説はいただけません。

清少納言と狭山池

枕草子に「池は狭山」というくだりがあります。現役の有名女流作家T氏は、その現代語訳で、この池は古今六帖にある「武蔵なる狭山の池のみくりこそ一」の狭山の池という意味の解説をしていますが、これは間違いでしょう。こういう過誤の原因はどこにあるのでしょうか。私はいろいろと探しているうちに、江戸初期の加藤盤齋という人をS社版H氏の古展出版物から発見することができました。盤齋は国文学者として多くの著書をもち周囲に強い影響を与えた人ですが、この人が古今六帖の「恋すてふ狭山の池の——」を「武蔵なる狭山の池の——」と変えてしまったので、以後の江戸を中心として起こった古典の諸注は、古今六帖に武蔵なる狭山の池——が存在するという説に右へならえをしたのだ、と、H氏は説明しています。平安朝の清少納言が僻遠の地箱根ヶ崎にある無名の——あるいは当時、菅の池と呼ばれたか——溜り水を狭山の池として取り上げたとは思えません。だいいち、狭山という言葉は武蔵では鎌倉末期までは生まれていなかったのではないのでしょうか。試みに私は吾妻鏡と太平記をくわしく探してみました。狭山という言葉はありませんでした。新田義貞が上野の国から鎌倉に上る道筋ですから狭山があつて当然なのですが、不思議と狭山はないのです。入間川、堀兼、小手指、金子、山口、久米川、村山など随所に見受けられるにかかわらず、狭山という地名は遂に発見できませんでした。

現在の瑞穂町の狭山池は鎌倉時代は菅の池と呼ばれていたことは、鎌倉期の私撰歌集である夫木集に載っていることで明らかです。ここでは狭山池と菅の池ははっきりと分けて使われているのです。

町では三ヶ年計画で池周辺一万六千平米を整備し、いよいよこの六十一年三月、狭山池公園としてオープンすることになりました。池畔に建てられた歌碑には

冬深み菅の池べを朝ゆけば

氷の鏡見ぬ人ぞなき 夫木集

と刻んであります。

## 先人と今

当地も昔からの人々のくらしの足跡がある。このことは一言ではつきないが、文化を継ぐには並々ならぬ涙と汗の結晶があると思う。笹塚遺跡、鍛冶谷遺跡などや、民具、生活態様などから多くの先人の知恵を有効に働かし自然を巧みに利用し、生活をより良いものにするため生き続けてきたいわば当時の様子を写しだすものだ。古代は物が不足し少ない資源をいかに有効に活用するかが人々に果せられた宿命であったろう。

こうした時代から見ると我々は遠い先人とはかけ離れた豊かな社会に育っていると見ても過言ではないと思うし、将来が今日のように科学的な時代になることも想像はできなかつたであろう。自然が段々と少なくなり昔日の生活態様が希薄に成りがちであるが「自然と調和」した先人の有形、無形の文化遺産は郷土の歴

## 東村山市教育委員会社会教育課 文化財担当主査 小山末雄

史を知るうえで貴重な資料であり、古民家、郷土館等の構築物はまた後世に残せる遺産であろう。

当市の茅葺民家は昭和59年に復元し、風俗にまつわる年中行事や、しきたりを取り入れながら公開しているが訪れる市民も時代の変遷を目で見て感嘆する場を度々見受けるのである。

一堂に展示できる施設に博物館なるものがあるが、私どもの市では昭和40年に郷土館が設置されたが、長年の耐用で老朽化も目立ち面的にもスペースが狭隘であることから、十分な展示ができないのが残念に思えてならない。収蔵庫に眠っている品々が、日の目にあたり自然と触れる機会を待ちたい。

この機に投稿させて戴きましたが雑筆ながらご容赦願いたい。

## 多摩の博物館（三博協加盟館をのぞく）

### 1. 歴史 (1986・1・15現在)

国分寺市文化財資料展示室 〒185国分寺市西元町  
3-10-16 0423-25-0111 (市役所) ㊟ 月・祝日  
無料

国分寺市立文化財保存館 〒185国分寺市西元町1-13  
-16 0423-21-0420 ㊟ 月・祝日 無料

小島資料館 〒194-01 町田市小野路町950 0427-  
35-2046 ㊟ 第1日曜日・第3日曜日 1PM~5PM  
大人 400円・小人 300円

香具山記念館 〒194-01 町田市能ヶ谷町1022 0427-  
-35-5702 ㊟ 月、毎月1、11、21日 大人 500円  
小・中・高生 300円

財団法人日本医学文化保存会 医学文化館 〒198  
青梅市黒沢1-722-31 0428-24-5444 ㊟ 月  
一般 300円 学生 200円 小人 100円

田無市郷土資料室 〒188 田無市向台町2-5-1  
0424-64-1311 (市役所) ㊟ 土・日 無料

徳蔵寺板碑保存館 〒189 東村山市諏訪町1-26-3  
0423-91-1603 ㊟ 月 大人 200円 小人 100円

### 2. 美術館

青梅市立美術館 〒198 青梅市青梅1346 0428-  
24-1195 ㊟ 月 大人 200円 小中学生 50円

玉堂美術館 〒198-01 青梅市御岳1-75 0428-  
78-8335 ㊟ 月 (祝日に当たるときは翌日) 大人  
300円 学生 200円 小人 150円

財団法人 中近東文化センター 〒181 三鷹市大沢  
3-10-31 0422-32-7111 ㊟ 月 大人 300円  
小人 200円

財団法人 東京富士美術館 〒192 八王子市谷野町  
492-1 ㊟ 展示会と展示会の間 特別展 800円 館  
蔵品展 600円

多摩美術大学美術参考資料館 〒192-03 八王子市鏈  
水1723 0426-76-8611 (代) ㊟ 4月第3週~7月  
第1週 9月第3週~12月第2週 ㊟ 開館時の土・  
日・祝日 無料

村内美術館 〒192 八王子市左入町787 0426-91-  
6301 ㊟ 第1水曜日 一般 500円 大高生 300円  
小中生 200円

### 3. 動物園・植物園

東京都多摩動物公園 〒191 日野市程久保300 0425-  
91-1611 ㊟ 月 (コアラ館は毎週金曜日) 大人  
300円 中学生 100円 小学生以下と65才以上は無料

羽村町動物公園 〒190-11 西多摩郡羽村町羽 4122  
0425-55-2581 ㊟ 月 (祝日に当たると翌日)  
大人 200円 中学生~4歳以上 50円

東京都神代植物公園 〒182 調布市深大寺元町5-31  
-10 0424-83-2300 ㊟ 月 大人 300円 小中生  
100円

東京都薬用植物園 〒187 小平市中島町72 0423-  
41-0344 ㊟ 年末年始のみ 無料

農林水産省林業試験場浅川実験林 〒193 八王子市廿  
里町1833 0426-61-1121 樹木園は4月を除いて開  
園 (日・祝日は休・土は12時まで) 桜保存林は4月のみ開園 (日・祝日は休) 無料

### 4. 産業・宝物殿・記念館

青梅鉄道公園 〒198 青梅市勝沼2-155 0428-22-

4678 ㊿ 月 無料

がす資料館 〒187 小平市大沼町2-590 0423-42-

1715 ㊿ 水曜日 無料

サントリービール博物館 〒183 府中市矢崎町3-1

サントリー武蔵野ブルワリー内 0423-64-2211(代)

電話で申し込む 無料

大国魂神社宝物殿 〒183 府中市宮町3-1 0423-

62-2130 ㊿ 祝日・日曜日 一般200円 学生100円

武蔵御嶽神社宝物殿 〒198-01 青梅市御岳山176

0428-78-8500 無休 大人 200円

国際キリスト教大学湯浅八郎記念館 〒181 三鷹市大

沢3-10-2 0422-33-3340 ㊿ 日・月・祝日

8月上旬 無料

多摩聖蹟記念館 〒206 多摩市連光寺329 0423-

75-7014 無休 大人 300円 小人 100円

八木重吉記念館 〒194-02 町田市相原町4473

0427-82-2950 (八木藤雄)電話で申し込む 無料

吉川英治記念館 〒198 青梅市柚木町1-101-1 0428

-76-1575 ㊿ 月 (3月のみ休み無) 大人 300円

学生 200円 小学生 100円

(佐藤 広)

## 〔昭和60年度展示活動報告〕

館名	展示会名	期間	内容
五日市町郷土館	写真展「戦中・戦後の五日市	61.2中旬~61.5	故坂本洋次郎氏(読売新聞通信員、五日市在住)の撮影した昭和10~20年代の写真120点を展示。
青梅市郷土博物館	多摩川の漁撈展	60.7.18 ~61.2.16	関係収蔵品を中心として、今は禁止され忘れ去られていく運命にある多摩川の伝統漁法と、鮎漁などの現代漁法の紹介。
	青梅のあけぼの展	61.2.21~ 一年間	市内遺跡の発掘によって出土した、石器や土器、鉄器などの遺物をもとに旧石器時代から奈良・平安時代にかけての青梅の姿を紹介する。
	収蔵品展	常設展	開館以来、市民の方々から寄贈をうけた民具をはじめとする収蔵品を展示、紹介する。
奥多摩郷土資料館	小河内の郷土芸能 (1階特別展)	60.4~61.3	水没した小河内地区に伝承されていた鹿島踊、車人形、獅子舞、神楽を展示。
清瀬市郷土博物館	常設展(2階)	60.4~61.3	小河内の山村生活用具と奥多摩地方の民俗資料。
	清瀬美術家展	60.11.2~11.4	清瀬市内在住の画家、彫刻家に出品していただいた展覧会。
	鷹道具展示	60.11.2~12.22	鷹狩りを行なう時の道具や鷹の剥製の展示。
	清戸獅子展示	60.11.2~12.1	市指定無形民俗文化財の清戸獅子に用いられる、秘蔵の面や道具の展示。
立川市歴史民俗資料館	円福寺薬師如来と十二神将の展示	60.11.2~11.24 (十二神将については1/2まで)	市指定有形文化財の薬師如来像と十二神将の展示。
	立川市の自然・歴史・民俗の展示	60.12.1 ~61.3.31	立川市の自然・歴史・民俗を、出土遺物、模型、ジオラマ、写真等で構成した展示。国宝・六面石幢の原寸大模型やまちなみの今昔写真も展示されている。また、立川の文化財、産業等を紹介するビデオコーナーも設置されている。
調布市郷土博物館	春の収蔵品展 「木とくらし」	60.4.16~7.7	収蔵資料の中から曲物、指し物等を取りあげる。
	「武者小路実篤遺品展」Ⅲ	60.7.16~9.20	実篤生誕百年を記念し、ご遺族から寄贈された作品、愛蔵品を展示する。
	近藤 勇と新選組	60.10.1~12.1	調布の上石原出身で、新選組局長として世に知られる近藤 勇関係資料の特別展。
調布市武者小路実篤記念館	開館記念特別展	60.10.29~ ~11.24	ご遺族、そのほか多くの方々から寄贈された、ゆかりのある品々を展示する。
東京都井の頭自然文化園	「井の頭自然文化園の動物」	60.4.1~12.28	井の頭自然文化園で飼育している動物、鳥、魚の代表的なものを写真パネルで紹介し、特徴を解説したもので、来園者が飼育動物等を観察する際の参考資料とした。大きな特徴は、これら動物達に園で与

東京都高尾自然科学博物館	昭和61年干支展 「トラのすべて」	61.1.4~2.28	<p>えている飼料を実物又は写真で陳列した。</p> <p>トラの体と生態を絵画パネルで紹介し、爪の動く仕組み、マーキング行動等を模型にし、来園者が自分で動かすことができるようにした他、ぬり絵、パソコンゲーム等を設け、ただ見せるだけの展示からの脱皮をはかった。</p>
	季節展 「奥多摩の植物」	60.10.27 ~11.30	<p>昭和50年度から10年間行なってきた奥多摩地域(秩父多摩国立公園内)の植物調査の研究成果から、低山帯に始まり亜高山帯にまでわたる奥多摩の豊富な植物相を、標本や写真によって紹介した。</p>
	「高尾山の野鳥」	60.12.13~	<p>高尾山で観察される野鳥は、一年を通じると100種類近くにもなるが、その中から主なもの約50種を見られる季節(一年中・夏・冬)別に紹介した。展示には、剥製の他に、バードカービングによる鳥を多く(36体)使った。分類展示であるが、飛ぶ・さえずる・採餌するなど、それぞれの野鳥の生態的特徴も出るような姿に工夫し、またBGM装置をつけ見学者が展示コーナーに近づくと鳥たちの声が流れるようになっている。</p>
東京農工大学工学部 附属繊維博物館	特別展 和紙工芸の美 ミニ展	60.11.9~11.17	<p>佐久間八重女の古典折り紙を中心として(故人)牧野成昭氏の紙彩画・小路和女の和紙はり絵など70点。</p>
	和紙はり絵展	60.3.7~4.17	<p>わらべはり絵などの作品32点。</p>
	蚕神お札展	60.4.20~5.30	<p>鈴木コレクション公開 約90点。</p>
	わら細工展	60.8.30~10.1	<p>斉藤晃輪氏のわらぞうりなどの作品50点。</p>
	テキスタイルデザイン展	60.10.1~10.29	<p>大塚学院生によるコンペ作品展。 (春と夏に関するイメージデザイン29点)</p>
	浮世絵による蚕織 図	60.11.5~11.30	<p>鈴木コンクッションの1部13額39点。</p>
	和紙の花展	60.11.5~12.25	<p>海部桃代女のばらなど作品30点。</p>
	マッチ商標による 風俗史	60.12.19~2.1	<p>昭和初期、亀山、中村コンクッション公開900点。</p>
八王子市郷土資料館	八王子空襲展	60.7.30~9.1	<p>1945年8月2日の未明、八王子はB29による空襲を受け、街は焦土と化した。それから40年、戦災も忘れ去られようとしている。そこで、『八王子の空襲と戦災の記録』の刊行をも記念して戦災資料を展示。</p>
	かご展	60.10.22~12.8	<p>私たちの暮らしの中でよく使われている籠を、あらためて多摩地域をベースとしてとりあげた。籠の他、籠目土器・日本常民生活絵引なども展示。</p>
	人物コーナー 「河井宗兵衛」	61.2.18~3.30	<p>八王子市川口町に生まれ、耐寒性品種の宗兵衛課という麦を生み出した河井宗兵衛(1853~1910)を紹介する。</p>
羽村町郷土博物館	特別展 「中里介山と旅」	60.4.6~5.6	<p>中里介山は近代における大旅行家の一人であり、『大菩薩峠』は、その舞台を日本全国各地に求めた一種の壮大な旅の文学といえる。その旅の全ぼうを概観し、特に介山の人生の節目ともなった信州(長野県)や中国・アメリカへの旅に焦点をあわせ、旅の年譜、国内外旅行遺品、紀行文、著作などを展示。</p>
	特別展 「玉川上水と羽村」	60.10.12 ~11.17	<p>羽村を中心として展示することで、玉川上水が羽村にどのような影響をおよぼし、かつ村の発展に寄与したかをさぐり、古文書、絵図をはじめ、竹の蛇籠、水門模型(第一水門・第二水門)、木樋と継手(組みになったもの)など50点余り展示。</p>

東村山市立郷土館	特別展 養蚕とくらし	60.3.26~4.14	会場をかやぶき民家に移して、生業で最も収入が期待できた養蚕（カイコ）の道具類を一堂に展示、当時の様子が一目でわかるような資料の作成と講演会を開催、昔の作業の大変さを有り有りと同がわせた。主な展示テーマとしては、1 養蚕と信仰 2 飼育 (イ)飼育法 (ロ)カイコの一生 (ハ)桑 3 養蚕の道具 を解説した。
	こどもの遊び展	60.4~	昔から伝わっていた歌でわらべを地方色豊かに表現した遊びの道具を展示、単純素朴な物からなつかしさを思い学ばせる“手作りの味”を展示しております。
	農業のくらし展	60.5~	当地は古く農業を中心に発展した町で、生業の中で欠かすことのできない道具類などを所狭しと展示、土と汗とで生活した農道具、民具、儀礼用具等を陳列し、何時でも直接目にふれ、わかりやすく説明も加えてある。
府中市立郷土館	春季特別展「多摩川の漁具」	60.3.9~5.4	多摩川中流域でかつて使用されていた漁具を展示するとともに、代表的な伝統漁法を紹介して多摩川再考の一助とする（昭和59年度からの継続展示）。
	市民芸術文化祭参加「刀剣展」	60.11.1~11.4	文化団体愛刀会主催の刀剣武具等の展示。
福生市郷土資料室	福生市の成り立ちと歴史を学ぼう	60.4.1~7.31	先土器時代の遺物から近世の絵図まで、福生の歴史を実物資料（一部レプリカ）を通して学習することを目的に実施した。
	福生の民俗とくらしを学ぼう ・漁業用具	60.4.1~10.31	福生市域の多摩川でかつて使われていた漁具を展示、同時にパネルで漁法や魚種について解説した。
	・養蚕と耕作農具	60.11.1~12.28	福生市内から収集した養蚕用具と、田畑で使用していた耕作農具を展示。
	・竹の民具	61.1.4~3.31	ヌキナシ、アユカゴなど竹製の民具を展示。
	特別展 福生市の自然展 ーミクリの生態を知ろうー	60.8.1~10.31	都市化の進行とともに年々景観を変えていく、当市の自然環境を様々な角度からとらえてみた。 市内多摩川の河原（河跡湖）に自生する多年草ミクリについて、種類、形態、分布、自生地、植生等、実物標本と写真によって展示。
	ー福生市の自然を観察しようー		福生市を地形、地質の面から分析し、そこにどのような自然環境が展開するかを実物標本、写真等で展示した。
	特別展 ふっさのいしぶみ展	61.1.5~3.31	市内の石の文化財を拓本によって紹介する。文化財総合調査の一つである石造遺物調査の過程で作成した拓本の活用。
	特別企画展 閩秀画家・奥原晴湖 ー俳人・友昇をめぐる人々ー	60.11.1~12.27	福生市出身で明治初期に俳人として文芸活動をした松原庵四世、森田友昇を検証するための展示（3回目）である。今回は、女流南画家として明治期に活躍した奥原晴湖を取り上げ、友昇との交流を明らかにすることで、友昇の活動範囲についてふれてみた。
町田市立博物館	原始時代の町田展	60.4.16~7.14	市内の各遺跡より出土した縄文・弥生・古墳時代の土器・石器などの遺物を通して町田の原始時代をさぐる。
	木の民具展	60.7.23~9.1	日本人の伝統的生活の中で使われてきた木製品を削りもの・挽きもの・曲げものに分けて展示。
	弁当箱展	60.9.10~10.20	花見遊山などに使われた蒔絵の提重から日常的な

瑞穂町郷土資料館	武相の懸仏展	60.10.29 ～12.15	弁当箱まで、その種類は実に多い。日本独特の弁当箱に対する創意工夫をみる。 信仰の対象として社寺に懸けられた懸仏を、武相（埼玉・東京・神奈川）地域内にのこる遺品を中心に紹介。
	アジアの凧展	60.12.24 ～61.2.23	日本・中国・朝鮮・スリランカ・ベトナム・タイなど16ヶ国の凧を紹介。
	同時展示 「民具と生活」	～61.3.16	町田市域で使われてきた衣食住と生産生業関係の民具を展示。
	町田の仏像展 —堺・忠生地区—	61.2.27～3.16	60年度実施した市内仏像調査をもとに、堺・忠生地区の仏像を展示。
	収蔵版画展 展示会 写真で見る石造文化財	61.3.21～4.6 60.11.2～11.4	国際版画美術館準備室が購入した作品の紹介。 町文化祭の一環として文化財保護審議委員会主催で実施、町内各地にある近世以降の石造文化財20点を撮影、パネルにして展示、庚申供養塔、地藏、馬頭観世音、念仏供養塔、鷹場石杭、狭山茶場の碑等を取り上げた。
武蔵村山市立歴史民俗資料館	常設展「武蔵村山その自然・その歴史・その民俗」	60.4.1 ～61.3.31	武蔵村山市の自然、歴史、民俗についてその概要を展示し、来館者のより深い学習の契機となるよう努めている。 ビデオコーナーでは新たに「武蔵村山市の郷土芸能」と「武蔵村山市の遺跡」を追加し、公開した。
	特別展「武蔵村山市の板碑」	60.7.17～9.14	中世の代表的な歴史民俗資料である板碑についてその造立年代や分布を示し、中世の武蔵村山市の一端を浮き彫りにするとともに、板碑を通して文化財保護意識の高揚に努めた。展示品の数量は実物22点、拓本7点、写真8点であった。
	作品展「子ども達の作った縄文土器」 写真展「武蔵村山の今と昔」	60.8.25～9.29 60.12.1～12.28	資料館事業として実施した「縄文土器づくり教室」の作品を展示・公開した。 資料館で収蔵している写真資料の内から「武蔵村山の今と昔」と題し、写真展を実施した。
	自然資料（押し花）展	60.12.1 ～61.1.14	内容は、市内小学校の校舎の移り変りを中心とした写真展であった。 資料館で収蔵している植物標本（押し花）の中から、市内で見ることのできる代表的な四季の草花35点を展示・公開した。

### 編集後記

調布市に武者小路実篤記念館が開館いたしました。武者小路実篤に関する専門博物館として、市民の方々をはじめ多くの人たちに親しまれ、利用されて行くことを期待いたします。

多摩地域でも少しずつではありますが、専門的な博物館、美術館がオープンし、これからも増えつつあります。社会が多用化すればするほど、一つのことを深く掘り下げて行く専門館が必要になってくるのではないのでしょうか。（Ka）

発行：東京都三多摩公立博物館協議会

〒194 町田市本町田3562

町田市立博物館内

☎0427-26-1531

編集委員：川松康人 阿賀英男

佐藤 広 横尾友一

印刷：八昭印刷(株)

町田市玉川学園7-10-27